

経営比較分析表

群馬県 南牧村

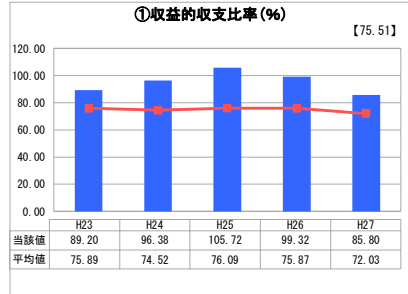
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	95.64	2,160

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
2,106	118.83	17.72
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
1,997	24.30	82.18

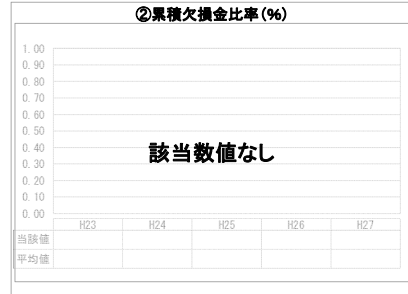
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- [] 平成27年度全国平均

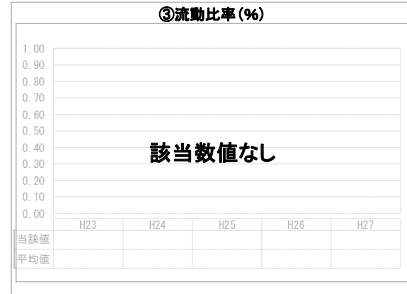
1. 経営の健全性・効率性



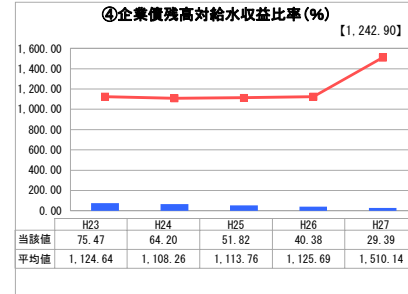
「単年度の収支」



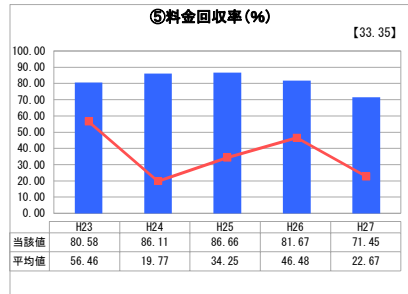
「累積欠損」



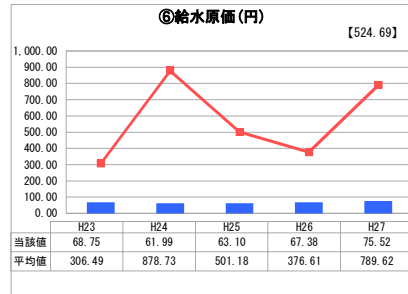
「支払能力」



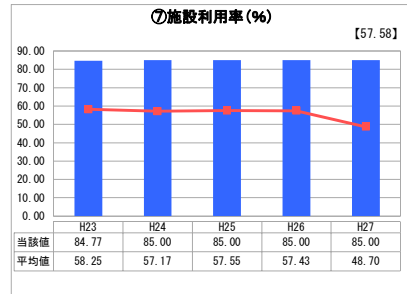
「債務残高」



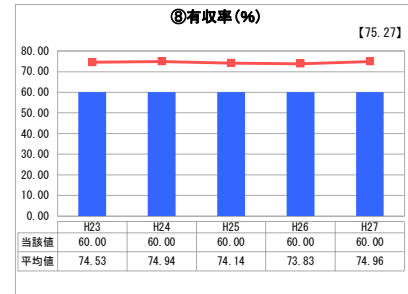
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

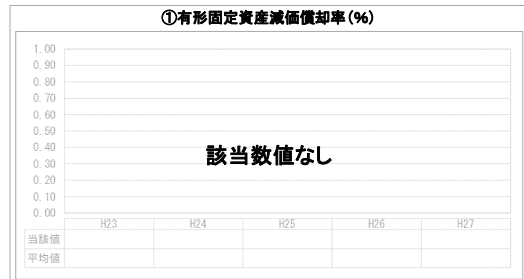


「施設の効率性」

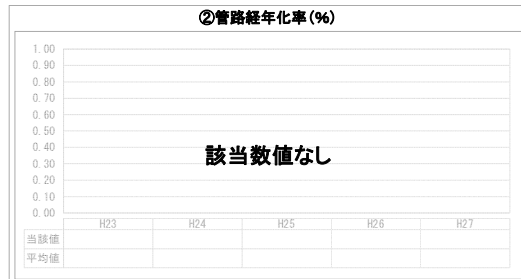


「供給した配水量の効率性」

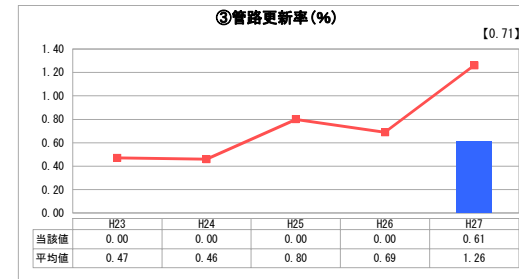
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

(1) ①今回修繕費が大幅に増加したため昨年と比べ15%の減少となった。しかし、他の類似団体と比較してもまだ高い比率である。
 ④他の類似団体と比べると大幅に低くなっている。その原因として施設設備の更新の先送りなどが考えられる。
 ⑤修繕費の増加に伴い前年度より10%の減となったが、他の類似団体と比べてもまだ高い比率である。
 ⑥近年は低い比率となっているが今後の更新等で比率が上がることも考えられる。
 ⑦他の類似団体が約50%に対して、約85%を保っている。今後この比率が下がらないよう管理していく必要がある。
 ⑧施設利用率が高い比率に対して、この有収率は比較的低い比率である。
 (2) 南牧村では今後、施設の老朽化等により施設の更新が必要となる箇所が多くなっていく。そのため給水に係る費用の削減や料金回収率を現在の比率より高くなるような取り組みが必要になってくる。また、上記で⑦、⑧のグラフを比較した際にも述べたように、有収率が低くなっている主な原因として漏水が考えられる。南牧村では冬期に気温低下による凍結で水道管が破裂するなど、凍結による漏水を多量に発生させた漏水対策も重要だが、漏水が多くみられる冬期の漏水対策をより一層取り組んでいく必要がある。

2. 老朽化の状況について

(1) ③平成26年までは管路の更新を全く行っていないが、平成27年は類似団体の平均までとはいかないが管路の更新をおこなった。
 (2) 近年、管路の更新を行っていないというのは、管路に異状がなく使用できていくという面もあるが、更新を先送りしているという考え方もできる。今回の更新も老朽化により使用が難しくなってきた管路の更新のため、計画的な更新ではないのが現状である。そのため今後も引き続き、管路の経年数や状況を整理し現状を把握したうえで、管路の更新を少しずつでも行わなければならないという課題がある。

全体総括

(1) 今後の課題として、施設・管路の老朽化に対して計画的な更新を行っていくこと、冬期に頻発する漏水に対して対策をより強化していくこと、などがあげられる。
 (2) これらの課題に対して、施設・管路の老朽化に対する更新については改めて経年数や現在の状況を整理し、施設設備については定期的に業者に点検等を依頼することで、必要な箇所から順を追って計画的な更新を行っていく。計画的な更新を行うことで費用の削減にも繋がるのが考えられる。冬期の漏水対策については、現在村が管理している管については保温材などを使用しているが、気温がより低下する地域については保温材を見直すなどの取り組みを行っていく。家庭の水道に関しては、村の告知放送やテレビなどで凍結対策を定期的に呼びかけるなど、凍結による漏水に対するの注意を促す取り組みをより強化していく。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。